

自分の考えをもち 学び合うことのできる児童の育成
—役割演技や動作化の表現活動を行い、考えたことを話合う活動を通して—

- 1 主題名 わがままな行い A (3) 節度、節制
- 2 教材名 「かぼちゃのつる」
出典 あたらしいどうとく 1 (東京書籍)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする指導内容

小学校第1学年及び第2学年の内容項目Aは、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」をねらいとしている。

低学年の段階では、周りを気にかけずに自分の思うままに行動したことが、周りの人を困らせる場合があることに気付かないことが多い。そこで、わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり、そのような生活が気持ちのよい毎日を送ることにつながることに気付かせ育てていくことが大切であると考え本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い (男子19人 女子17人 計36人)

本学級の児童は、穏和で明るい児童が多く、素直な態度で学校生活を送っている。これまでに、道徳科「べんきょうがはじまりますよ」では、時間を守ることのよさに気付き、きちんとした生活をしようとする学習を行った。生活科では、学校探検のなかで、グループの仲間のことや他学年の授業の時間を考えながら、自分勝手な行動は控えて、楽しく活動するように支援した。しかし、休み時間や清掃活動などの場面では、忠告されても自分のことだけを考えて行動し、友達や学級全体に迷惑をかける場面がみられた。また、そのような行為が他の人たちの迷惑になっていることになかなか気が付かない様子もみられた。そこで、児童の実態を把握するため、次のようなアンケートを行った。

事前調査

(令和3年9月3日)

- 1 わがままをしないで我慢することは、大切だと思いますか。
・思う (36人) ・思わない (0人)
- 2 わがままを我慢したことはありますか。
・はい (33人) ・いいえ (3人)
- 3 その時、どんな気持ちでしたか。
・少しいやだった。 ・つらかった。 ・残念だった。 ・がまんしなくてはいけないんだ。
・少しならいいじゃないか。 ・相手が喜んでくれて、嬉しかった。

事前調査の結果から、ほとんどの児童は、わがままをしてはいけないことを理解している。しかし、実生活では我慢したことが嫌な印象として残っていたり、生活体験が少なくわがままな言動に走りがちであったりした。そのため、友達とトラブルになってしまう児童も多い。また、自分勝手な行動をわがままな行為として自覚していなかったり、他の迷惑になっていることに気付いていなかったりする場面も少なくない。

そこで、本学習を通して、これまでの生活体験と重ね合わせながら、周囲の人と自分のことを考え、わがままをしないで生活しようとする心情を育てたいと考えている。

(3) 資料について

資料「かぼちゃのつる」は、主人公のかぼちゃが自分のしたい放題につるをのばしていく。みんなの忠告を聞かずに道までつるを伸ばした時に、トラックが来て、あっという間につるを切られて泣いてしまうという内容である。

自己中心的な行動をとったことで他者に迷惑をかけ、さらに自分も困ってしまうという児童の生活の中でもありがちなことであり、十分に共感できると思われる。注意されてもわがままを通していったかぼちゃの気持ちに焦点を当てて考えることにより、謙虚に他者の意見や忠告に耳を傾け、素直に反省することの大切さを考えさせる機会としたい。

目標に迫るために、本授業ではこれまでの生活体験と重ね合わせながら、わがままなかぼちゃの心情に役割演技や動作化の表現活動を取り入れて共感することにより、ねらいに関わる道徳的な価値につい

て考えていけるようにする。導入の段階では、生活科で育てたあさがおのつるの写真を提示し、ぐんぐん伸びていったことのうれしさを想起して、かぼちゃに共感しやすくする。展開では、児童が話の内容に興味をもち、自分のこととして考えが深まるように場面絵を活用し、役割演技をする。さらに、かぼちゃのわがままな気持ちに共感できるように、動作化を取り入れる。これまでの自分を振り返り、わがままを我慢した経験やその時の気持ちをペアで語ることで、周りの人も気持ちよく生活できるということに気づき、周囲の人と自分のことを考え、わがままをしないで生活しようとする心情を育てる。

4 本時の指導

- (1) ねらい 周囲の人と自分のことを考え、わがままをしないで生活しようとする心情を育てる。
 (2) 準備・資料 ・写真（あさがお・かぼちゃ）・場面絵・紙テープ・ワークシート・心情カード
 (3) 学習指導過程 ○個に応じた手立て (評) 評価方法

主な活動と発問	予想される児童の反応	支援の手立て・評価
1 あさがおのつるが伸びた時の気持ちを想起する。 ○あさがおのつるがぐんぐん伸びていったとき、どんな気持ちでしたか。 2 資料「かぼちゃのつる」を読んで話し合う。 ○つるをぐんぐん伸ばすかぼちゃは、どんなことを思ったでしょう。 ○はち、ちょう、すいか、いぬに注意されたかぼちゃは、どう思ったでしょう。 ○トラックにつるを切られ、泣いてしまったかぼちゃはどんなことを思ったでしょう。 3 今までの生活を振り返り、わがままをしないで行動できた時のことをカードに書く。 ○周りの人のことを考えて、わがままをがまんできたことを思い出して書きましよう。 4 教師の説話を聞く。	・うれしかった。 ・もっと伸びてほしいと思った。 ・ほかの人のつると絡まって面白かった。 ・楽しいなあ。 ・どんどん大きくなるぞ。 ・もっと遠くまで伸びるぞ。 ・気持ちがいいなあ。 ・ちよつとくらいいいだろう。 ・そっちにいきたいの。 ・ぼくの畑はせまいんだよ。またいで行ってよ。 ・うるさいな。 ・ぼくの勝手だろう。 ・痛いよう。ひどいじゃないか。 ・車のせいだ。 ・こんなことなら、みんなの言うことを聞いておけばよかった。 ・言うことを聞かないぼくが悪かったよ。 ・これからはわがまましないよ。 ・手洗いの順番を守った。 ・ボールをひとり占めにしないで友達にパスした。 ・授業の開始時刻を守った。 ・読書の時間に読みたかった本を友達にゆずった。	・成長したあさがおや、かぼちゃの写真を提示し、自分の育てている植物と絡めて主体的と考えられるようにする。 ・今までの活動や体験を想起することで、かぼちゃの気持ちに近づく下地をつくる。 ・読み聞かせに合わせ、場面絵を黒板に提示し、かぼちゃの気持ちを感じ取れるようにする。 ・黒板に掲示したかぼちゃのつるを実際に伸ばしてみ、かぼちゃが気持ちよくつるを伸ばしていることを押さえる。 ・役割演技を取り入れ、役を交代したり、見ている側の意見を取り入れたりしながら、多面的・多角的に考えられるようにする。 ○演技場面で不安定な気持ちが予想されるA児には演技を見て思ったことを話せばよいことを助言する。(支援者) ・なぜ、注意を聞かなかったのかを考えることで、かぼちゃの気持ちに迫れるようにする。 ・動作化を取り入れ、かぼちゃの思いの変化を気付くことができるようにする。 ・かぼちゃの気持ちが変化した理由を問うことで、わがままをしないで生活をしようとする気持ちに触れる。 ○気持ちを発表できない児童には、気持ちが書かれたカードの中から、自分の考えに近いものを選んで表すことができるようにする。 (評) 節度ある生活が自分にとっても、周囲にとっても気持ちがよいと気付くことができる。(ワークシート・発表) ・実生活にありそうな休み時間の場面を提示し、その場面でどのように行動するかを考え、今までの自分を振り返るようにする。 ○書くことに抵抗があるB児には具体的な場面を投げかけ、書き出しの言葉を提示する。(支援者) ・ペアトークを行い、友達の考えに触れられるようにする。 ・わがままをせずに生活すると、周りの人も気持ちよく生活できるということに触れる。 ・普段の生活の中で児童の自分勝手な行動を我慢した例を紹介し、温めた価値を振り返りながら余韻をもって終わる。